

稲作  
ポイント

生育を確認して、安定収量確保に向けて  
施肥と病害虫対策をしましょう！

男鹿地区営農センター 加藤 勇輝



幼穂形成期・減数分裂期前の追肥

今年は有効茎を十分に確保できた圃場が多く、順調に生育が進んでおり、今後は幼穂形成期や減数分裂期に入っていきます。幼穂形成期の追肥は着粒数を増加させ、減数分裂期の追肥は米粒肥大が向上します。生育診断を実施後に追肥を行い、収量向上に努めてください。

※「サキホコレ」は、「あきたこまち」よりも葉色が淡く見える品種です。また、追肥がタンパク値の上昇につながるため、十分に注意して施肥しましょう。

●倒伏させない追肥

葉色が淡いからと追肥を行うと倒伏につながる可能性が大きいため、追肥は十分に考えてから行いましょう。また、出穂期に近い追肥はタンパク質が高くなり、食味低下に繋がるため行わないようにしましょう。幼穂形成期の追肥については、草丈、葉色を見ながら行ってください。

●施肥例

幼穂形成期の場合（「あきたこまち」で7月15日頃）

- ・ 幼穂長2mm、葉齢11葉
- ・ 基準量10aあたりチツソ成分量1kg

肥料名	(Nチツソ-Pリンサン-Kカリ)	使用量
NK23号	(23-0-23)	4~5kg/10a
ニュー穂肥34号	(15-4-15)	7kg/10a
NK2号	(16-0-16)	7~8kg/10a

減数分裂期の場合（「あきたこまち」で7月25日頃）

- ・ 幼穂長5mm、葉耳間長±0cm
- ・ 基準量10aあたりチツソ成分量1.5kg

肥料名	(Nチツソ-Pリンサン-Kカリ)	使用量
NK23号	(23-0-23)	6~7kg/10a
ニュー穂肥34号	(15-4-15)	10kg/10a

いもち病対策

葉色の濃いところや風通しが悪く蒸れやすい場所で発病しやすいため、注意しましょう。

●対策薬剤

使用時期	薬剤名	使用量	使用時期
出穂前	ブラシン粉剤	3~4kg/10a	葉いもち病斑発見時 出穂15~7日前に散布
	コラトップ粒剤	4kg/10a	
出穂後	ラブサイド粉剤	3~4kg/10a	出穂期~7日後
	ラブサイドフロアブル	1,000倍で100ℓ/10a	

斑点米カメムシに注意！

今年は、田植え後から好天が続き、雑草の生育も早く進みました。そのため、雑草の散布適期を逃した圃場で、ヒエやホタルイなどの残草が見られる状況です。圃場内の雑草処理と畦畔や農道などの草刈りを行い、カメムシの発生密度を低下させましょう。

生産資材・農産物の盗難などに注意！

肥料・農薬や収穫した農産物などの盗難・悪用・流失を防ぐため、施錠できる屋内で適切に保管しましょう